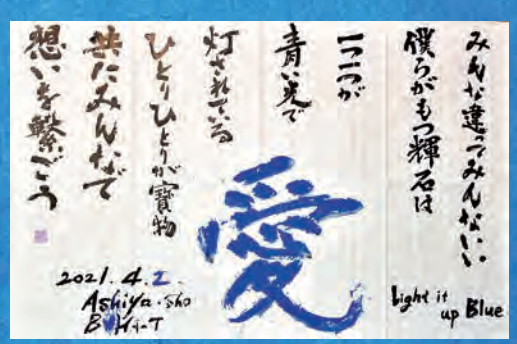
問い合わせ　障がい福祉課
☎38-2043 FAX38-2160

特性に合わせたコーチングで伸び伸びとレッスン

スイングでも動作を区切って教えるなど、ＡＳＤの特性を理解し指導の工夫を心掛けることで、楽しくチャレンジできると思います。」と指導する側の障がいに対する理解の必要性を語っています。
社会にＡＳＤのことを理解する輪が広がれば、ＡＳＤのある人たちが活動できる場所は広がり、もっと人生の喜びも増えていきます。「今は、ゴルフをしている時がいちばん楽しいです」とはっきり力強く答えてくれた龍之介君の言葉に“障がいを知る”ことの大切さを感じさせられた瞬間でした。

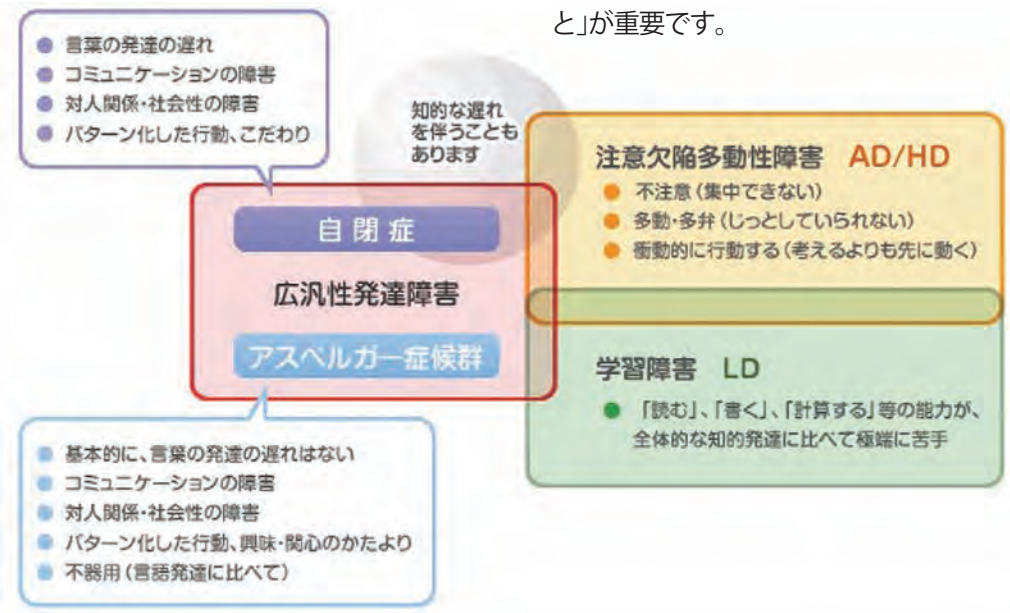


４月２日は「世界自閉症啓発デー」。
「Light It UP Blue」（ADSや発達障害への認知度と理解を高める活動）で、龍之介君の詩を芦屋高校書道部が気持ちをこめて揮毫（きごう）しました。

「発達障がい」とは

発達障がいは、広汎性発達障害（自閉症など）、学習障害、注意欠陥多動性障害など、「脳機能の発達に関係する障がい」です。発達障がいのある人は、コミュニケーションや対人関係を作ることが苦手です。また、その行動や態度が「自分勝手」とか「困った人」などと誤解され、敬遠されることも少なくありません。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障がいによるものだと理解すれば、周りの方々の接し方も変わってくるのではないでしょうか。

発達障がいのある人たちが個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、子どものうちからの「気づき」と「適切なサポート」、そして何よりも発達障がいに対する私たち一人ひとりの理解が必要です。発達障がいがあるといっても、障がいの種類や程度によって違いますし、年齢や性格などによっても、一人ひとり違いますので、生活の中で困難なこと、苦手なことも一人ひとり違います。そのため、「一人ひとりの特徴に応じて配慮をしたり、支援したりしていくこと」が重要です。



発達障がいの人に接するときの配慮について

発達障がいがあるといっても、生活に困難なこと、苦手なことは一人ひとり違います。配慮してほしいポイントをいくつか紹介します。

▶他の人が簡単にできることでも、うまくできない
→努力している点、うまくいっている点を褒めたうえで、できなかったところは、どのようにやればもっと良くなるかを肯定的・具体的に伝えてみてください。

▶あいまいな表現が苦手
→言葉で説明するときは、短い文で一つずつ順を追って具体的に説明すると理解しやすくなります。

▶言葉で言われても理解しづらい
→自閉症など広汎性発達障害の特性をもっている人の多くは、言葉で言われるよりも、目で見て分かる情報の方が理解しやすいと言われていますので、写真や絵を添えて説明すると理解しやすくなります。

▶人混みや大きな音が苦手
→自閉症の人たちの中には人混みや大きな音、光などの刺激を苦手とする人が多くいます。そのような刺激による不快感を大きくしないよう、安心できる環境を作ってあげましょう。

政府広報オンライン「発達障害って、なんだろう？」より

合理的配慮提供支援助成事業活用事業者インタビュー

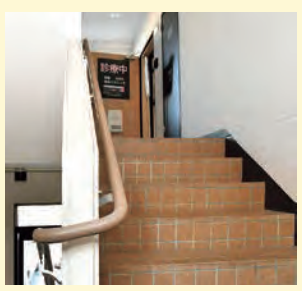
芦屋市では、令和３年１月に「芦屋市障がいを理由とする差別のない誰もが共に暮らせるまち条例」を施行しました。民間事業者の合理的配慮の提供を推進するため、「合理的配慮提供支援助成事業」を創設しました。
この事業を活用いただいた事業者の取り組みを紹介します。

※合理的配慮の提供
障がいのある人から、困っているときにその障がいに合った必要な工夫ややり方を伝えられた場合、過重な負担がない範囲で対応すること。

誰もが住みやすく心優しい都市へ

皮膚科芦屋柿本クリニック 院長　川畑香さん

当院は令和元年に浜町から春日町に移転しました。以前は１階でフルフラットの医院でした。現在は２階部分にあり、階段だけで手すりもエレベーターもありませんでした。下肢に障がいがあるかたから、「移転後も通院しやすいように階段に手すりを設けてほしい。」との要望もあり、合理的配慮提供支援事業の助成を受けて設置しました。

設置後は、手すりがないために来院を控えていた患者さんも再び来院してくれました。「階段に手すりがないと、受診を拒絶されているような気持ちになる」と言われ、心のバリアにもなっていた事に気づきました。そして合理的配慮が欠けていたことの見過ごしを反省しました。

この事業は障がいのあるかたへの支援事業ですが、どなたも年齢とともに何かしらの障がいが出る可能性があります。芦屋市が合理的配慮の推進を発信してくれることは、街全体にその意識が浸透し、新しく事業を始めたい人へ影響をおよぼしていくと思います。その輪が広がることで誰もが住みやすく心優しい都市が育まれていく気がします。